

植物多様性センターの「ツルウメモドキの黄色い実」

武蔵野ゾーンにあるツルウメモドキの雌株に黄色く色付いた実が沢山付いています。ツルウメモドキはニシキギ科ツルウメモドキ属の落葉性つる植物です。名前はウメモドキに葉と実が似ていることから名付けられたそうですが、あちらはモチノキ科で系統的には離れた植物です。生け花でツルウメモドキを使う場合は実そのものではなく、実が割れた後の赤い種子を鑑賞するようですが、割れる前の黄色い実にも可愛らしさを感じます。



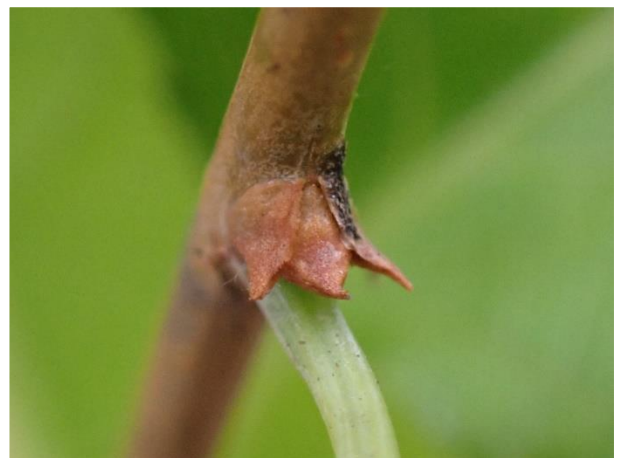
実の大きさは7~8mm。先端には花柱が残る。



実は熟すと割れて、赤い仮種皮に包まれた種子が現れる。



ツルは植物などに絡まりながら伸びる。



冬芽: 外側の芽鱗は硬く、他のものに引っ掛かりやすい形状。